

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月18日作成)

小委員会名	雨水活用技術規準改定小委員会	主査名：宋 城基 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)	委員長名：大岡龍三 主査名：秋元孝之
設置期間	2023年4月 ～ 2024年3月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>新たな「水循環基本計画」が閣議決定され、資源としての「雨水（あまみず）」の位置付けや、調査研究の必要性、民間レベルでの活動の推進がより強く打ち出されており、一層の雨水活用の普及やその関連技術の要求が多くなると予想される。また、『日本建築学会環境基準 AIJES-W0002-2019 雨水活用建築ガイドライン』との整合性を図ることや、『日本建築学会環境基準 AIJES-W0003-2016 雨水活用技術規準』における概念や計算方法および評価手法の改良の要望が多い。このことから、AIJES-W0003の改定版を刊行する。</p> <p>初年度：AIJES-W0003の改定版刊行、講習会開催</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：宋城基（広島工業大学） 幹事：大西和也（雨水貯留浸透技術協会）、笠井利浩（福井工業大学）、尾崎昂嗣（アールアンドユー・レゾリューションズ） 委員：青木一義（西原衛生工業所）、小川幸正（雨水市民の会）、江曉敏（千葉大学）、平山由佳理（工学院大学）、向山雅之（竹中工務店）</p>	
設置WG (WG名：目的)		
2023年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項目	自己評価
委員会開催数	7回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 『日本建築学会環境基準 AIJES-W0003-2024 雨水活用技術規準』【電子版】
講習会	1. 「日本建築学会環境基準 AIJES-W0003 雨水活用技術規準」改定講習会 参加者数 15名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 『日本建築学会環境基準 AIJES-W0003 雨水活用技術規準』本文原案について、本会Webサイトで意見募集を行った。
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 技術規準の刊行、講習会実施
委員会活動の問題点・課題	1. 前著者らの意見をどこまで反映すべきなのか

*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価
(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	2021 年度に改定作業が一通り終わったものの、前主査や前作成者による改定内容合の意見交換を経て、現在委員会メンバーによる再検討が必要となった。そのため、目的達成期間の 2 年目 (2022 年度) には刊行ができない状況となった。2022 年度は改定内容の再検討を行い、ほぼ改定作業の最終段階に到達したため、2023 年度には、査読・パブリックコメントを経て、改定版の発刊という目的が達成できた。

- 総合評価は4段階 (A>B>C>D) にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。
- 提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」(1年目・3年目不要)
設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」(1年目不要)
設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」
設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」